

第6問

A.

問1 「なぜジェリーは岩だらけの入り江に行きたかったのか」→ ④「浜辺は以前ほど魅力的に見えなかった」

冒頭のシーンで、人で込み合った浜辺がジェリーにとってはおなじみの場所であること、そして「もう飽きたの?」という母親の問いかけに否定はしたものの、岩場の方に行ってみたくて言っていること、さらに母親の許しを得るとそちらに直行していることなどを間接的な手がかりとして推測すべき問題である。ただし、より実際的には消去法で答えるべきであろう。他の選択肢は次の通りである。

- ① 「彼は地元の少年たちと親しくなりたかった」
- ② 「彼は疲れていたため、岩の上で休みたかった」
- ③ 「母親がそこへ行くのは面白いだろうとほめかけた」

問2 「地元の少年たちが海に潜っている間、ジェリーはどんな気持ちだったか」→ ③「彼らがとても長い時間潜っていられることに感嘆していた」

これも推測が求められるが、消去法で答えるべき問題である。初めの少年が潜っている間は驚きに満ちていたが、他の少年がみな潜ってしまうと、数を数えて時間を計り、自分もまねをしたいという気持ちに変わっていることに注意したい。他の選択肢は次の通り。

- ① 「岸にいる人たちに警報を発したいと思った」
- ② 「海の深さがどれくらいかを知りたいと思った」
- ④ 「彼らと競争するつもりでいた」

問3 「どうしてジェリーは計画を実行しようと決心したのか」→ ③「もし先延ばしにしたら、もう試すことはないかもしれないと思った」

これに該当する心理描写は、本文後半の計画実行直前の岩場のシーンに見られる (If he did not do it now, he never would.)。他の選択肢は次の通り。

- ① 「115まで数えることができた」
- ② 「地方当局から許可をもらった」
- ④ 「自分のことを母親に誇りに思って欲しかった」

問4 「なぜジェリーは115まで数えたところで少しの間時間の経過のことを忘れてしまったのか」→ ③「穴の端に近いと思ったために興奮した」

間口が広がってから夢中で泳ぎだし、時間のことを忘れたという本文の主旨と一致する。他の選択肢は次の通り。

- ① 「穴の端で光を見たとき頭が混乱した」
光が見えたのは数え直してからのことである。
- ② 「岩に頭をぶつけたとき時間を忘れてしまった」
- ④ 「115まで数えるというのは以前には経験がなかったので驚いた」

第1問

A.

問1 ①のみ第2音節に、他はすべて第1音節にアクセントがある。

問2 ③のみ第2音節に、他はすべて第1音節にアクセントがある。

B.

問1 ②の for は [fər] と弱く読み、①③④の for は [fɔ:r] と強く読む。一般に前置詞は弱く読むが、①は for (～に賛成して) と against (～に反対して) とが、③は from Mary と for her とが対比されているので強く読む。また、④のように文尾に置かれた前置詞も強く読む (Where are you from? など)。

問2 ③の there は for は [ðeər] と強く読み、①②④の there は for は [ðər] と弱く読む。There is ～. (～がある) の there は便宜的に文頭に置かれた語であり、特に意味はない(「そこに」とは訳さない)。このように文法的機能のみを持つ語を「機能語」と言い、一般に弱く読む。関係詞や形式主語の it など機能語である。①②④の there はすべて There is ～構文のバリエーションであるが、③の over there は「向こうに」という実質的意味を持っている。つまり、③の there は機能語ではない。したがって③のみを強く読む。

C.

一般に文強勢においては、話者が最も伝えたい情報を強く読む。なお、本問は冒頭に示されているとおり、3人の会話である点に注意を要する。

問1 テリーがシドニーに住んでいると聞いて、マリオンが「自分の妹もシドニーに住んでいる」と答える場面。シドニーという地名は既に話題に上っているので、この発言中で最も重要な情報は「妹」である。したがって sister を強く読む。

問2 テリーは「妹さんは何をしていますのですか(妹さんの仕事は何ですか)」と尋ねている。当然 what も強く読むが、選択肢には含まれていない。does your sister do の中で最も強く読むのは、最後の do である。does の方は意味を持たない機能語(助動詞)だが、do は「～をする」という意味を持つ他動詞である。

問3 「自分はサッカーにあまり興味がない」というハリーの発言に対して、テリーが「自分の方はサッカーを見るのが好きだ」と言っている。一般に人称代名詞は弱く読むが、この場面ではテリーがハリーと自分とを対比しているため、I を強く読む。

問4 「何を食べたいか」というマリオンの質問は、料理の種類を尋ねている。したがってテリーの返答中では、Chinese を強く読むのが自然である。

[全文訳]

マリオン：おや、あなたはアメリカの方ですか。

テリー：いいえ、私はカナダ人ですが、シドニーに住んでいます。

第2問

A.

問1 「もしすぐに雨がやんだら、散歩に出かけましょうか」

条件や時を表す副詞節中では、未来の内容も現在形で表す。主節の助動詞が shall だから、仮定法過去ではない。

問2 「最初はクラスの誰も答えを見つけられなかったが、ついにデイビッドが答えを思いついた」

come up with ~ は「(解決策などを)考え出す、思いつく」の意味のイディオム。

問3 「ジムはきのうスキーの事故にあったが、無事だ。大けがをしていたかもしれないのだから、彼は運がいい」

「could + have + 過去分詞」は仮定法がもとになった婉曲表現で「(ことによると)~していたかもしれない、~した可能性もある」の意味を表す。事故にあったのは過去のことだから、might hurt や should hurt は不可。

問4 「車の調子がおかしいぞ。タイヤがパンクしているに違いない」

「タイヤがパンクする」は get [have] a flat (tire) と言う。

問5 「日曜日にぼくらといっしょに海辺へ行くかい」「本当に残念だけど、やっぱり行けそうにないんだ」

make it は「成功する」「間に合う」などさまざまな意味を持つ口語的イディオムで、ここでは「(会などに)出る、出席する」の意味を表す。

問6 「運賃 (fare) とは、たとえばバスや列車やタクシーなどによって行われる旅行の対価として支払うお金である」

一般に、charge はサービスに対する料金、cost は費用、fee は専門職の人への謝礼を表す。

第3問

A.

fainting (失神) の起こるメカニズムについて述べた文章である。空所 (29) については、第3文と第4文とのつながりを考える。ここでは、脳中の酸素が不足する理由として、「頭を急に回すこと」と「ネクタイやシャツでえりを締めること」という2つの理由が並列的に述べられている。両者を結びつける適切な接続副詞は、①の Additionally (そのうえ、それに加えて) である。次に空所 (30) については、第3・4文と第5文とが「原因」と「結果」との関係になっていることから、①の As a result (その結果) が正解となる。

[全文訳]

失神とは、意識が一時的に失われた状態であり、脳中の酸素の不足によって起こる。血管の緊張によってこの状態が起こる場合がある。たとえば、頭を急に回すと脳への血流が減少することがあり、そうすると当然脳中の酸素が減る。さらに、ネクタイやえりのきついシャツを身につけていると、血管に圧力がかかることがある。その結果、脳に十分な酸素が行きわたらず、正常に機能しなくなるのである。

B.

問1 文整序の問題では、指示代名詞・主語の単複と動詞の一致・時制・つながりの言葉などがポイントになる。本問は紫色の染料の起源について述べた文章で、空所 (31) の直前の文に出てくる Murex snails がキーワードである。選択肢中では、まずAの From this liquid の this に着目する。空所の前には liquid (液体) という語は出てこないため、Aの this liquid はCに出

第4問

A.

(X) (Y) (Z) に対応するヘアスタイルについて説明しているのは、表のあとに続く第4段落である。それによると、最も不人気 (The least favored hairstyle) なのが the “bushy” style だとわかる。グラフでそれに相当するのは各世代共通に最低の支持率 (19%, 10%, 10%) を示す (X) の部分である。次に、the disco style が最年長グループでは2番目 (29%) に好まれているとあるので、表の (Y) の部分であることがわかる。この2点を突き止めれば正解は①だとわかる。

B.

問1 「クルーカットを選んだ最年長グループの人たちの割合は、最年少グループのそれと比べて約・・・倍である」→ ④ 「1.8」

グラフによると、前者が37%、後者が21%なので、その比率を求める。

問2 「人々はこの調査のために最初に次のようなやり方で選ばれた」→ ③ 「研究者らが偶然に任せて彼らを選んだ」

第1段落中ほどの People across the country were randomly selected... が該当箇所。randomly (無作為に) を選択肢では depending on chance に言い換えている。他の選択肢は次の通り。

① 「電話帳に載った最初の600人が招かれた」

② 「研究者らが3つのグループに属する人たちに電話をかけた」

これは順序が逆で、まず電話をかけて、もしその人が3つのグループに属するなら協力を求める、という主旨でなければならない。

④ 「5つのヘアスタイルの人たちが選ばれた」

問3 「髪が最も短く切られていた時期は・・・だった」→ ① 「1950年代」

第2段落の初めのクルーカットについての説明を根拠にする。イラストも左から年代順になっていることを参考にしたい。

第5問

A.

空欄（ 1 ）には、最初の足跡をオオカミのものだと推定したアンに対するエリの言葉が入る。このあとに続くアンのセリフには、その判断の根拠らしきものが述べられているところから、ここではAの「どうしてそれがわかるの？」が適当である。空欄（ 2 ）には、2番目の足跡が snowshoe hare のものだと述べたアンに対するエリの言葉が入る。エリがさらに続けて「それは“毛深い”動物なの？」とたずねると、アンは「いえ、その hair じゃないのよ」と答える。つまり、ここでは動物の名前の由来をめくって2人がやりとりしているのである。そこでCの「なぜそう呼ばれているの？」を入れるのが正しい。空欄（ 3 ）は、3つ目の足跡を見ながらエリが述べた言葉に対するアンの応答部分である。教える立場のアンの言葉としてBの「その通り！」が適当である。

B.

問1 下線部(1)は2番目の足跡を指している。以下の本文に指摘されているこの足跡の特徴としてわかりやすいのは、全体がアヒルの足跡にやや似ている、爪先が丸い形をしている、という2点である。他に、かんじきやウサギのイメージも参考になるだろう。いずれにしても、これらの条件に合うのは④である。

問2 下線部(2)は3番目の足跡を指している。オオカミの足跡に似ているものの、相違点として、爪あとが5本ある、中央部分が2つに分かれている、爪先の方が丸みを帯びている、などの点が挙げられている。これらの条件に合うのは⑥である。

C.

問題番号42の選択肢の意味は次の通りである。

- ① 「アンは野生動物の足跡について1人で学んだ」
- ② 「アンのおじは森の安全な方の場所に住んでいる」
- ③ 「オオカミの足跡を見分ける上で爪の数は重要である」
- ④ 「若いオオカミはクズリと呼ばれる」

正解は③である。最初に見つけたオオカミの足跡についてのアンの説明やクズリの足跡との比較を述べたエリの言葉から、オオカミの爪の数が重要なのは明らかである。①については、「1人で学んだ」ではなく「おじから学んだ」とすべき。②については、アンのおじが森の住人だとは書かれていないので誤り。

問題番号43の選択肢の意味は次の通りである。

- ① 「アンはおじの家の外でアヒルの足跡を見つけた」
- ② 「アンのおじは野生動物からキノコを守るために森をパトロールする」
- ③ 「歩いている途中で、エリとアンは3種類の異なる動物の足跡を見つけた」
- ④ 「人々は足をあたたかく保つために冬にかんじきを履く」

正解は③である。2人はオオカミ、カンジキウサギ、クズリの順番で足跡を見つけた。④については、かんじきを履くのは「雪の上を歩くため」と本文にあるので、主旨が異なる。